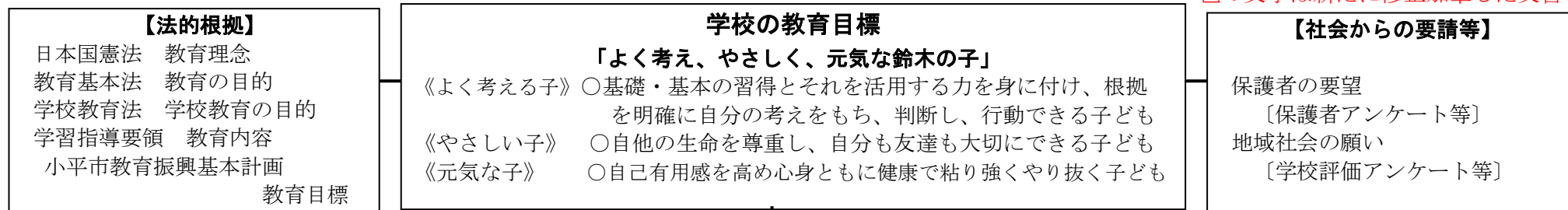


令和2年度 授業改善推進プラン全体計画

色の文字は新たに修正加筆した文言



各教科の指導の重点

○基礎・基本の習得とその活用をとおして、思考力、判断力、表現力をはぐくむ

- 週2回の朝学習「鈴木タイム」(モジュール)では、国語の文字に関する事項の基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- 算数は、3年以上「基本コース」「基本・標準コース」「標準・発展コース」の習熟度別指導を実施する。但し、単学級は「基本コース」「標準・発展コース」とする。
- 学習支援者を積極的に活用し、個に応じた指導を充実させる。

○言語環境の整備と言語活動の充実に努め、言語に関する能力の育成を図る

- 学年の実態とねらいに沿って、書く活動を日常的に取り入れ、書く能力を高める。
- 毎週1回、朝読書の時間を設定し、読書活動の充実を図る。
- 学期に1回の読書旬間を設ける。また、目標をもって読書し、日常的に読書に親しむよう「読書ファイル・カード」の活用などを行う。
- 場に応じたあいさつや適切な言葉遣いができるようにする。
- 国語辞典を常に傍らに置き、分からない言葉を調べ、語彙を増やしていく辞書引き学習の習慣を確立させる。

○学習環境を整備し、児童の学習習慣を確立する

- 学校全体で、学習ルールの徹底を図る。併せて、教育環境を充実させ、学習する環境を整える。
- 児童に考え分かる喜びを実感させ、学ぶ意欲を育むためにも、家庭と連携を図りながら、学年×10分の家庭学習の定着を図る。
- 個の教育ニーズに応えるように教材の開発、指導の工夫改善を行う。
- ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業展開を全校で統一して学習環境を整える。
- 地域教育コーディネーターと連携し、地域の人材を活用した体験的な活動を多く取り入れ、実感の伴う学習を実践する。

○生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う

- 昨年度の体力テストの結果分析に基づく授業の改善・充実を図る。併せて健康に関する学習を充実させる。
- マラソン旬間、ピョンピョン(なわとび)旬間を設定し、体力向上に向けた全校的な取組を充実させる。
- 学級ごとに体力向上を目指した一実践を設定し、様々な機会を設けて積極的に取り組む。
- 委員会提案の多様な運動の取組を休み時間を利用して実践する。

学校の教育目標を達成するための基本方針

【確かな学力の向上】

- 自ら学び続ける子の育成
- 「鈴木タイム」(モジュール)の充実
- 全学級にICT機器の設置、積極的な活用
- 読書の習慣化
- 豊かな言語活動の充実
- 主体的・対話的で深い学びの実践。

【豊かな心の育成】

- 人権尊重、生命尊重の精神を培う教育の推進
- いじめ防止授業の実施
- 認め合い協力し合う心の醸成

【健やかな体の育成】

- 体力向上を目指した授業改善の実施
- オリンピック・パラリンピック教育の推進
- 体育活動の充実
- 食育の推進
- 健康・安全教育の推進

【自立心の育成】

- 異学年異学級交流(たてわり班活動)を通じた望ましい人間関係の形成
- 安全指導を軸にした児童自身の危険回避能力の育成
- 特別支援教育の視点に立った教育環境整備
- 校内研究主題「主体的に考え、相手の意見も認めながら、よりよく人と関わる児童の育成～学級活動の話合いを通して～」児童の問題意識を高め対話し協働活動をする中で自己有用感、自己肯定感を醸成する。

【郷土を愛する心の育成】

- 保護者・地域の人材の積極的な活用と連携
- あおぞら福祉センター・子ども家庭支援センター等の連携
- 地域の高齢者、障がい者との交流
- 近隣幼稚園・保育園との交流

令和2年度の学力調査等の分析より
 「東京ベーシックドリル 診断テスト」R2.6
 ○2～6年実施。

学年	平均(点)
2	75
3	79
4	74
5	70
6	60

学校全体の平均点72点。前年度の学習範囲の定着度は、やや低い傾向である。習熟が必要な領域・内容を以下に挙げる。
 2年生・・・文章題、大きな数、ひき算、時刻。
 3年生・・・繰り上がり
 の計算、九九。4年生・・・時刻と時間、作図、文章題の定着。5年生・・・面積、小数のわり算、□や△を用いた式、立体の仕組み。
 6年生・・・概数、関係式、割合、分数のわり算、複合図形の体積、公倍数。
 12月診断テスト3回目までに各学年の平均を10点以上上げるよう計画的・意図的に指導を積んでいく。

道徳教育の指導の重点

- 自己理解を深め、集団の一員としての自覚をもちよりよい人間関係づくりをしようとする態度を育てる。
- 自他の生命の尊厳さを感じ取り、生命あるすべてのものをかけがえのないものとして大切にしようとする心を育てる。

外国語活動の指導の重点

- 外国語を通して、言語や文化について理解を深めるとともに積極的にコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

総合的な学習の時間

- 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成する。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

特別活動の指導の重点

- 学級活動・委員会・クラブ活動における勤労・奉仕的な活動を通して自主的主体的な姿勢を育てる。
- 異学年交流等の集団活動を通してよりよい学校を築こうとする実践的態度を育成する。
- 遊びの活動を工夫して、友達と関わることの楽しさを味わわせる。

生活指導の重点

- 学校全体で新しい生活様式を徹底し、基本的な生活習慣の定着と、児童の規範意識を育てる。
- あいさつ運動等を実施し、場に応じたあいさつや適切な言葉遣いができる力を身に付けさせ、自他を大切にすることを養う。
- 児童理解・問題把握に努め、いじめや不登校等の課題を具体的に検討するサポート体制を構築し解決を図る。
- 相手の立場や気持ちを考え、共助活動を重視し、「心の東京革命」の趣旨を活かした社会貢献活動の心を育成する。
- 「情報モラル教室」「薬物乱用防止教室」「セーフティ教室」や「地域安全マップづくり」を実施し、児童に危険回避能力を身に付けさせるとともに、自らの生命を大切にすることを他者の生命も尊重しようとする態度を育成する。
- 「防災ノート」を活用するなど、大地震等の災害に備えた防災教育を進め、自分で判断・行動できる力とともに助け合う心を育成する。

進路指導の重点

- 幼・保・小・中連携を図りながら、児童の発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観を育む。
- 教育活動の様々な場面において、児童が自己有用感を高め、将来の生き方や生活について前向きに考え、行動する態度を養う。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫 教育環境の整備	校内における研究 研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型の学習を行い、根拠を明確にして考えを伝え合う話し合い活動を通して主体的に考えを深め解決する力を育成する。 言語活動を積極的に取り入れ、絵日記・意見文など日常的に書く活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴木タイム(朝のモジュール学習)の回数を増やし言語の基礎学力を高める。 校内掲示計画を明確にし、校内研究・「特別の教科 道徳」委員会・クラブ活動等が全校で共有できる環境整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究検証として学級活動の研究授業を年間3回実践する。 研究夕会を毎週1回実施する。 授業改善にかかわるOJT研修を月1回実施する。 アンケートを実施し実態把握をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価規準(A規準、B規準)を明確にし、授業観察、ノート記述、振り返りカード等を活用して評価を行う。 学年やブロック・専科で評価内容の詳細を検討し、共通理解の上で評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習(学年×10分)の定着を図る。 地域教育コーディネーター等の人材を活用する。事前打ち合わせを実施し児童の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。

